

**「カリキュラムの考え方と特色」改訂をテーマとした  
保育学科ファカルティ・ディベロップメント活動の実施報告**  
—保育者養成カリキュラムの構造化と教育責任の明確化に向けた新たな試み—

田中崇教<sup>1</sup>、柴田玲子<sup>2</sup>、井上範子<sup>3</sup>、池内裕二<sup>4</sup>、出木浦孝<sup>5</sup>、  
小西博子<sup>6</sup>、中村多見<sup>7</sup>、山本幾代<sup>8</sup>、山田純子<sup>9</sup>、田中弓子<sup>10</sup>

**Improving “the objectives and characteristics of the  
curriculum” as a Faculty Development project--Restructuring  
the curriculum in the Department of Early Childhood Care  
and Education at Takamatsu Junior College.**

**Takanori Tanaka, Reiko Shibata, Noriko Inoue, Yuuji Ikeuchi  
Takashi Dekiura, Hiroko Konishi, Tami Nakamura, Ikuyo Yamamoto  
Junko Yamada, Yumiko Tanaka**

要約

本報告は、本学保育学科「カリキュラムの考え方と特色」事業の改訂内容である。初版は2002年に作成されたが、時代の変化に鑑み、保育学科では2009年から組織的・計画的に再検討を行った。

3年間にわたる事業の成果として、再設定された「保育学科の目指す保育者像」に基づく保育者養成カリキュラムの構造化と教育責任の明確化が本質的な部分に見出される。

キーワード：保育、カリキュラム、ファカルティ・ディベロップメント

(Abstract)

The purposes of this paper is to explain methods used to improve “the objectives and characteristics of the curriculum” at Takamatsu Junior College (1st ed., 2002). In order

<sup>1</sup> 提出年月日2012年11月30日、高松短期大学保育学科准教授、<sup>2</sup> 高松短期大学保育学科教授、<sup>3</sup> 高松短期大学保育学科教授、<sup>4</sup> 高松短期大学保育学科教授、<sup>5</sup> 高松短期大学保育学科教授、<sup>6</sup> 高松短期大学保育学科准教授、<sup>7</sup> 高松短期大学保育学科准教授、<sup>8</sup> 高松短期大学保育学科講師、<sup>9</sup> 高松短期大学保育学科講師、<sup>10</sup> 高松短期大学保育学科講師

to adapt to the changing social needs, the college has reviewed essential parts of the guidelines systematically and intentionally over three years from 2009.

The result of the project is the reconstruction of educational objectives and the teacher-training curriculum, along with the establishment of the instructor competencies.

Key words: Early Childhood Care and Education, Curriculum, Faculty Development

はじめに

本報告は、2009（平成21）年度以降保育学科においてファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）活動として取り組まれた保育者養成カリキュラム再編成とその構造化の成果である。以下に示す資料は、改訂「カリキュラムの考え方と特色」を構成する一部に過ぎないが、組織的かつ継続的な取り組みとして公開することによって、保育者養成機関として保育学科が担う教育責任を明確にする意図がある。

改訂作業へ向けた取り組みの背景

保育者養成カリキュラムの構造化に関する取り組みは、松原・西浦・坪井（2003年）などで確認されるように「カリキュラムの考え方と特色」（以下、「初版」と略記）として2002年に確立された。当時、この資料を保育学科学生、本学の他学科に属しつつ保育者養成のための授業科目を担当する教員や非常勤講師らに向けて広く配布・公開することにより、次の2点が目論まれた。

まず1点目は、学生に対して「本学の目指す保育者養成像の全体像を理解することによって、学生一人ひとりに意欲的な学習態度が形成されること」であった。そして2点目は、教員らに対して「本学の目指す保育者養成とそのカリキュラム構成の意図に関する理解促進を図り、個々の教員の学生指導における自己改善努力と本学が目指す保育者養成の目的を達成するための努力を求めること」であった。研究授業（授業参観・授業検討会）の実施なども含めた保育学科における一連の「組織的な」取り組みは、特徴的な短期大学におけるFD活動の事例として注目を集めた。

ところが、2010年度入学生から導入された教職実践演習やその後の保育士養成課程の改正により、保育学科はカリキュラムの大幅な組み替えを実施した。同時に、保育学科や保

育者養成を取り巻く様々な時代の変化に対応するため「初版」改訂の必要性が保育学科会議等にて声高に叫ばれた。

そこで、平成21年度以降計画的に改訂作業が進められた。中心的な作業として取り組んだ項目は、時代の変化に対応しつつ地域に根差した保育者養成を実現するための「保育学科の目指す保育者像」「カリキュラムの系統的概念図」「保育者養成カリキュラム（「時代の変化に対応した独自の科目」設置を含む）」の検討であった。

とりわけ、改訂に向けて検討すべき事項とみなされた点は、「科目の配置」と「教員個人の指導の系統性」であった。「初版」が2002年に確立されて以来、教員の異動や科目担当者の変更は決して少なくない。このように教員個々が担当する科目に基づき指導の系統性を構築する場合、確かに教員各々の教育責任は明確に示される。しかし、教員の異動あるいは担当科目の変更が生じた際には、その都度、系統性の再設定が「求められる作業」として浮上したのである。「教員個人（個人が担当する科目）」を中軸に据えて指導の系統性を構築した場合の長所と短所が改めて確認できたとはいえ、いかなる改善策を講じるかが課題として浮かび上がったのである。

#### 具体的な改訂内容—2012年度までにおける成果—

以上の経緯を踏まえ、今回の改訂作業にあたり学科全体で重点的に取り組んだ点、すなわち「新たに試みた」点は、次の2点に集約される。まず1点目は、「保育学科の目指すべき保育者像（教育目標）の具体化」（以下、「保育者像」と略記）である。2年間の学修期間を経て到達すべき保育専門性の内容をより詳しく記述することにより、保育者養成機関である保育学科の掲げる教育成果がより明解になる。同時に、保育学科学生のみならず広く授業担当教員や実習協力園、地域社会（高等学校等を含む）に保育学科における教育上の特質をより具体的にアピールすることができる。こうして、初版の内容を踏まえつつ、実情に鑑みた「保育者像」が2009年に「子育て支援や福祉を通じて、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者」として再設定された。その際に、次の4項目を具体的に到達目標とした。すなわち、「子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感・倫理観を高める」、「自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育む」、「高度な専門的知識と的確な洞察力・判断力を身につける」、「多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養う」である。これらは、

日々の授業や本学のFD研修会、あるいはオープンキャンパスや入学前教育（保育学科オリジナル冊子「これから仲間となるみなさんへ」の配布を含む）等様々な機会を通して学生や教員のみならず地域の保育所や幼稚園等、高校生らに広く報じてきた。

2点目は、この「保育者像」に基づき保育者養成カリキュラムを構造化し、指導上の系統性を再構築することである。「初版」で打ち立てられた指導上の系統性は、「実習を中心とした実践力の育成」や「保育者に求められる自己教育力の育成」、そして「教員個人の指導上の系統性」から構成された。その後のカリキュラム改革や教員の異動によって実情との間に乖離が生じ、再構築の必要性が高まったこと、とりわけ個々の教員主導ではなく、保育学科主導に基づいた「各科目における教育責任（具体的到達目標）」の明記を改訂上の課題に据えたことは、既に述べたとおりである。

2010年から2011年にかけて改編した保育学科保育者養成カリキュラムとその構造化は、こうした改訂上の課題に取り組んだ成果の一部である。まず、保育者養成カリキュラムはその概要を構成するにあたり、「実践的保育力の総合的涵養」を専門科目の中核へと新たに据え、「初版」を参考にしつつ、「実践的保育力の総合的涵養」群、「保育・教育の本質と目的を理解するための科目」群、「保育・教育の対象を理解するための科目」群、「保育・教育の内容と方法を理解するための科目」群、「保育実習・教育実習」群、「その他」群、「教養科目」群から専門領域等に基づく科目群を設定した。そして、2年間の学修期間をそれぞれ「1年前期（第1 Semester）の実践的保育力の基礎涵養期（基礎理論の習得や意識形成を通して、保育実践への土台を築く期間）」、「1年後期（第2 Semester）から2年前期（第3 Semester）にかけての実践的涵養期（保育実践を通して保育の意義を理解すると同時に、専門理論の習得や保育職への意識形成を確立させる期間）」、「2年後期（第4 Semester）の総括的涵養期（実践の振り返りを通して、自己の学びを発展的に総括する期間）」に区分けした。このような枠組みの中へ個々の授業科目を配列することによって、時期上のおよび専門領域上の意味づけが明確になった。さらにいえば「実践的保育力の総合的涵養」科目である保育職基礎演習Ⅰ、同Ⅱ、保育・教職実践演習、保育学研究法、卒業研究の各科目は、各期に配列された個々の授業科目らを横断的かつ総合的に涵養する科目としての性格を有するため、本カリキュラムの中核に位置づけられたのである。

また、「保育者像（具体的到達目標）」に基づき「各科目における具体的到達目標」を設定したことも、特筆すべき改訂内容である。この施策により、各科目を「保育者像」の実現するための授業内容（シラバス）として改めて系統的に配置し、保育学科の保育者養成

カリキュラムにおける「保育者像」と「各科目」との関係構造を明確にした。ただし、科目担当教員の指導上の特性を担保させる必要がある。そこで「各科目における具体的到達目標」を踏まえつつ各科目担当教員によって設定する「受講学生が特に取り組むべき重点課題」も同時に新設した。すなわち、「保育者像」を実現するために4つの観点（「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」、「専門的知識と思考力（洞察力・判断力）」、「保育実践力」）に基づく「偏りのない調和のとれた授業内容」が、各授業科目とその担当教員の教育責任として位置づけることができたのである。

おわりにかえて

以上、2012年度までに実施した改訂への「新たな試み」は、「初版」から発生した課題に対して組織的かつ継続的に取り組んだ保育学科の成果である。本成果を研究授業報告や授業改善事業（「春日の里の知恵袋—保育学科のティーチング・ティップス—」）のように保育学科のFD事業として公開することにより、地域社会に根差した保育者養成機関としての役割、また子育て支援推進機関としての役割を保育学科は担い続けていく。

とはいえ、「はじめに」でも述べたとおり、本報告は「カリキュラムの考え方と特色」改訂作業の一部に過ぎない。次年度以降、さらなる改訂作業を実施していく。

注

<sup>1</sup> 松原（2004年）において確認されるように、保育学科では2003年度以降、保育学科専任教員の授業を公開するとともに検討会を開催して授業改善を図る研究授業が、現在（2012年度）に至るまでFD活動事業として実施されている。その都度の成果は、本学紀要にて確認することができる。

#### 主要参考文献

松原勝敏・西浦和樹・坪井貴子「保育者養成カリキュラムの構造化に関する取り組み」『高松大学紀要第39号』高松大学・高松短期大学2003年、153-170頁所収。

松原勝敏・西浦和樹・坪井貴子・井上範子・柴田玲子・池内裕二・田中美季「保育者養成カリキュラムの構造化に関する取り組み—教員間の授業内容の調整による構造化の実現—」『高松大学紀要（第40号）』高松大学・高松短期大学2003年、153-167頁所収。

松原勝敏「保育学科における授業研究の実施とその背景」『高松大学紀要（第42号）』高松大学・高松短期大学2004年、173-182頁所収。

田中崇教・松原勝敏・柴田玲子・井上範子・池内裕二・小西博子・影浦紀子・吉田茂孝・中村多見・田中弓子「保育学科におけるファカルティ・ディベロップメント活動の成果報告—研究授業の蓄積に基づくティーチング・ティップスの作成—」『研究紀要（54・55号）』高松大学・高松短期大学2011年、311-349頁所収。

## 保育学科 カリキュラムの考え方と特色

保育学科は、「保育学科をめざす保育者像（教育目標）」を次のように設定しました。

### 保育学科をめざす保育者像（教育目標）

子育て支援や福祉を通じて、地域に積極的に貢献するとともに  
自己研鑽し続ける保育者

その際に、次の4点を具体的な到達目標として掲げました。

### 具体的到達目標

- A 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を高める
- B 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育む
- C 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力を身につける
- D 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養う

これら教育目標（具体的到達目標）は、地元地域に根差した実践的指導力を有する保育者養成という社会的使命を達成するため、以下に示す建学の精神や「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」のみならず、研究室制度を中核とする本学の伝統ある教育風土・文化、あるいは子育てをめぐる近年の社会的ニーズを反映しています。

### 建学の精神

対話にみちみちた、豊かな人間教育をめざす大学  
自分で考え、自分で行える人間づくりをめざす大学  
個性を伸ばし、ルールが守れる人間づくりをめざす大学  
理論と実践との接点を開拓する大学

#### 保育学科 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

子どもを愛し誠実で明るい性格を持って常に相手の立場に立って考え行動できる人、基礎的な学力に加え、常識をわきまえ礼儀正しくコミュニケーションをきちんととることのできる人の入学を期待しています。

#### 保育学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学科の目的および保育学科のめざす保育者像（教育目標）を達成するためのカリキュラムを、次の3つの理念に基づき構成しています。

- 1 建学の精神にある「理論と実践との接点を開拓する大学」の実現を目指します。
- 2 「実践的指導力の総合的涵養」を中軸に据え、「保育・教育の本質と目的を理解するための科目」「保育・教育の対象を理解するための科目」「保育・教育の内容と方法に関する科目」「保育実習・教育実習」の科目群と「その他」の専門科目群および教養科目を系統的構造的に配列し効率的効果的な教育を実現します。
- 3 研究室制度を中心とした指導体制によって、持続的に研鑽し続ける保育者としての資質を高めます。

#### 保育学科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業に必要な単位を修得し、保育学科の目指す保育者像（教育目標）の具体的到達目標として掲げた保育者としての資質能力（「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」「専門的知識と思考力」「保育実践力」）を身につけた学生に卒業を認め、短期大学士（保育学）の学位を授与します。

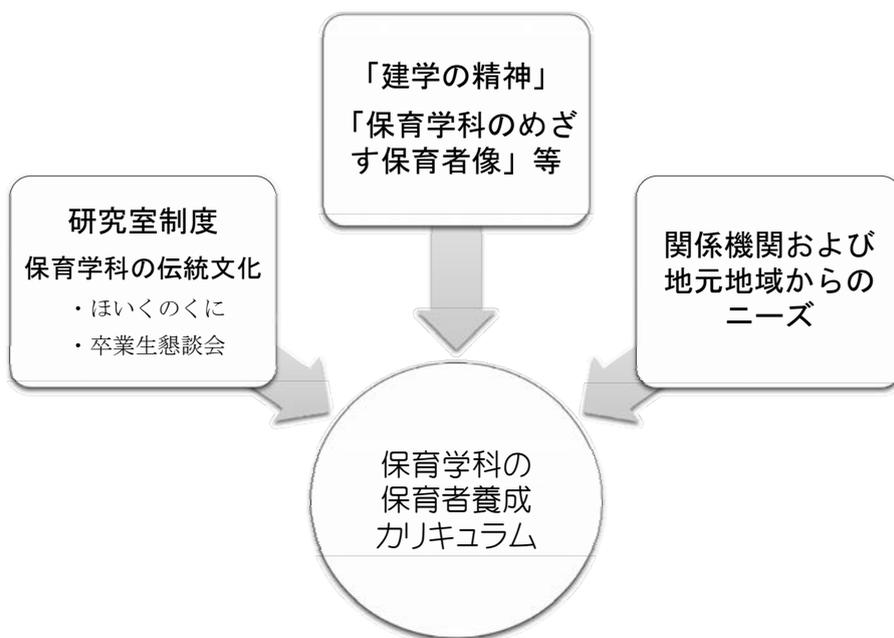
以上に基づき、保育者養成カリキュラム構築すると同時に、その系統的構造化を行いました。

保育学科のめざす保育者像（教育目標および具体的到達目標）

子育て支援や福祉を通じて、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者			
A	B	C	D
職業使命感と倫理観 子どもの命と成長に対して、誠実に向き合う	豊かな人間性 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接する	専門的知識と思考力 高度な専門的知識を習得するとともに、状況を的確に洞察し判断する	保育実践力 多彩な保育活動を創出する基礎技能を備えている

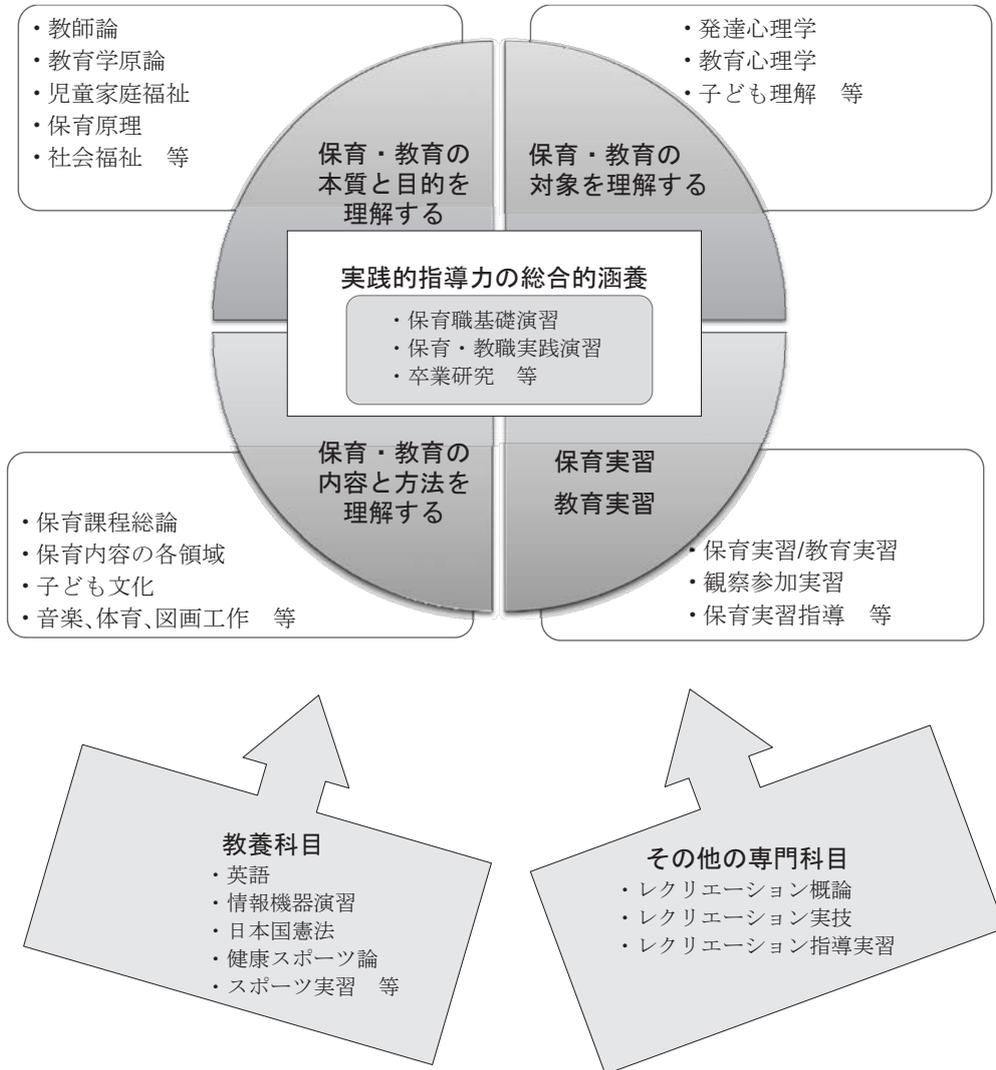
保育学科カリキュラムの概念図①

保育者養成カリキュラムの構成背景



保育学科カリキュラムの概念図②

保育学科の保育者養成カリキュラム



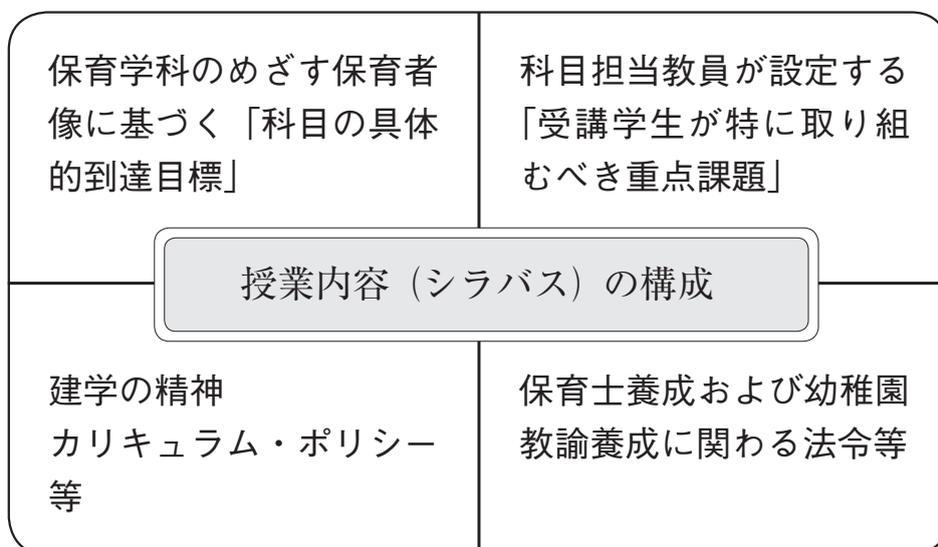
保育学科カリキュラムの系統的配置図（カリキュラム・マップ）

	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
科目配置の ねらい 科目群	基礎理論の習得や意識形成を通して、保育実践への土台を築く期間	保育実践を通して保育の意義を理解すると同時に、専門理論の習得や保育職への意識形成を確立させる期間	実践の振り返りを通して、自己の学びを発展的に総括する期間	
保育・教育の本質と目的を理解する	教師論 教育学原論 児童家庭福祉	保育職基礎 保育原理Ⅰ 社会福祉 社会的養護	保育職基礎 教育制度論 保育相談支援 (社会的養護内容) 幼保専門特別演習	卒業研究 保育原理Ⅱ 保育環境論 相談援助
保育・教育の対象を理解する	発達心理学Ⅰ 子どもの保健Ⅰ-Ⅰ	基礎演習Ⅰ 教育心理学 子ども理解 子どもの保健Ⅰ-Ⅱ	基礎演習Ⅱ 発達心理学Ⅱ 臨床心理学 子どもの保健Ⅱ 子どもの食と栄養Ⅰ	(保育内容 人間関係) 教育相談 家庭支援論 子どもの食と栄養Ⅱ
保育・教育の内容と方法を理解する	乳児保育Ⅰ 保育課程総論 保育方法論 保育内容 表現Ⅰ 音楽Ⅰ-Ⅰ 体育Ⅰ-Ⅰ 野外活動実習 図画工作Ⅰ-Ⅰ (保育内容 表現Ⅰ) 子ども文化Ⅰ	乳児保育Ⅱ 音楽Ⅰ-Ⅱ 体育Ⅰ-Ⅱ 図画工作Ⅰ-Ⅱ	保育学研究方法 社会的養護内容 障害児保育Ⅰ 保育メディア演習 保育内容 健康 保育内容 表現Ⅱ ピアノ特別演習 (保育内容 表現Ⅱ) (保育内容 健康) 国語	障害児保育Ⅱ 保育内容 人間関係 保育内容 環境 保育内容 言葉 保育内容 表現Ⅲ 保育内容 総合 音楽Ⅱ 体育Ⅱ (保育内容 表現Ⅲ) 図画工作Ⅱ 子ども文化Ⅱ (保育内容 言葉)
保育実習／ 教育実習	保育実習指導Ⅰ-Ⅰ	保育実習指導Ⅰ-Ⅱ 保育実習Ⅰ 観察参加実習	保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育実習Ⅲ 教育実習事前事後指導 教育実習	
その他	レクリエーション概論 レクリエーション実技Ⅰ	レクリエーション実技Ⅱ		レクリエーション指導実習
教養科目	情報機器演習Ⅰ 英語Ⅰ 英語Ⅲ 日本語表現基礎Ⅰ	情報機器演習Ⅱ 英語Ⅱ 英語Ⅳ 日本語表現基礎Ⅱ	健康スポーツ論 日本国憲法 哲学 芸術鑑賞 現代史 ドイツ語Ⅰ	スポーツ実習 心理学 環境論 香川学 人権教育（同和教育を含む） ドイツ語Ⅱ

\*イタリックの箇所は、「保育内容の科目と位置づいているが、内容・専門領域上関連している」ことを示した。

保育学科のめざす保育者像を実現するための  
各科目における「具体的到達目標」および  
科目担当教員が設定する「特に取り組むべき重点課題」

各科目における授業内容（シラバス）構成の概念図



「保育・教育の本質と目的を理解するための科目」群

科目	「科目の具体的到達目標」 (各科目における具体的到達目標の具体化)		「受講学生が特に取り組むべき重点課題」 (各科目における具体的到達目標を踏まえ、科目担当教員が設定)
教師論	A	保育者の使命感・倫理観ならびに保育職の専門性を体系的に理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職保育者（保育士および幼稚園教諭）として持続的に研鑽すべき使命感や職業倫理や道徳性の重要性を理解すると同時に実践し続ける【主としてA、B、Dに対応】</li> <li>・ 専門職保育者に関する基礎知識や基本的判断力を確実に習得する【主としてCに対応】</li> </ul>
	B	専門職保育者の在り方に関する継続的学習を通して人間性を育む	
	C	保育者像ならびに保育職に関する専門的基礎知識や判断力を習得する	
	D	保育者として責任ある保育実践を成し得るための基礎を培う	
教育学原論	A	教育の思想的実践的原理の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の意義や目的、思想、制度、実践等に関する基礎知識を確実に習得する【主としてC、Dに対応】</li> <li>・ 教育の現代的課題（生涯教育を含む）に関心を向け、教育に関する自ら（保育者としての立場）の考えを構築する【主としてA、Bに対応】</li> </ul>
	B	教育を支える基礎理論（教育の原理）に関する継続的学習を通して人間性を育む	
	C	教育の原理に関する専門的知識や判断力を習得する	
	D	教育を支える基礎理論の習得により豊かな保育実践の基盤を培う	
保育原理 I	A	保育の思想的実践的原理の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の意義や目的、思想、制度、実践等に関する基礎知識を確実に習得する【主としてC、Dに対応】</li> <li>・ 保育や子育てをめぐる日本国内外の現代的特徴や課題に関心を向け、保育や子育てに関する自ら（保育者としての立場）の考えを構築する【主としてA、Bに対応】</li> </ul>
	B	保育を支える基礎理論（保育の原理）に関する継続的学習を通して人間性を育む	
	C	保育の原理に関する専門的知識や判断力を習得する	
	D	保育を支える基礎理論の習得により豊かな保育実践の基盤を培う	

\* 卒業必修科目を中心に公開

「保育・教育の対象を理解するための科目」群

科目	「科目における具体的到達目標」 (各科目における具体的到達目標の具体化)		「受講学生が特に取り組むべき重点課題」 (各目における具体的到達目標を踏まえ、科目担当教員が設定)
発達心理学	A	健やかな心身の発達を支える観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として子どもの心身の発達に関する専門的基礎知識を確実に習得する【Cに対応】</li> <li>・子どもの健やかな心身の発達を支えようとする保育者意識を培い、それを支える保育実践への意欲を高める【A、B、Dに対応】</li> </ul>
	B	主として人間の心身の発達に関する継続的学習を通して人間性を育む	
	C	主として人間の心身の発達ならびに心身の発達を支える保育に関する専門的基礎知識や判断力を習得する	
	D	健やかな心身の発達を支える保育実践の基礎を培う	
教育心理学	A	知的発達を支える観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として子どもの知的発達に関する専門的基礎知識を確実に習得する【Cに対応】</li> <li>・子どもの知的発達を支えようとする保育者意識を培い、それを支える保育実践への意欲を高める【A、B、Dに対応】</li> </ul>
	B	主として人間の知的発達に関する継続的学習を通して人間性を育む	
	C	主として人間の知的発達ならびに知的発達を支える保育に関する専門的基礎知識や判断力を習得する	
	D	知的発達を支える保育実践の基礎を培う	
子ども理解	A	子どもの心身の特性ならびにその特性に応じた保育の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の特性に関心を向け、保育者としての立場から子どもの受容や理解について自己の考えをもつ【主としてA、Bに対応】</li> <li>・子どもの心身の特性に関する基礎知識を習得し、状況を的確に省察、判断する力を身に付け、記録や保育実践などの保育技術の向上を図る【主としてC、Dに対応】</li> </ul>
	B	子ども理解に基づく保育の継続的な学習を通して人間性を育む	
	C	子どもの心身の特性に関する専門的知識や判断力について「実践の省察」を組み込みつつ習得する	
	D	例えば子ども理解に基づく保育の記録等、望ましい保育実践を支える業務上の技能を向上させる	
家庭支援論	A	子育て家庭への支援者としての保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族ならびに子育て支援の意義・機能等に関する基礎理論を確実に習得する【主としてCに対応】</li> <li>・家族ならびに子育て支援をめぐる現状および今日的課題に関心を向け、保育者としての立場から「あるべき支援方法」と「対応上の心構え」に関する自らの考えを構築する【主としてA、B、Dに対応】</li> </ul>
	B	子育て家庭への支援に関する継続的学習を通して人間性を育む	
	C	家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得する	
	D	現代的ニーズに対応した保育ならびに子育て支援を成し得る基盤を培う	

\* 卒業必修科目を中心に公開

「保育・教育の内容および方法を理解するための科目」群

科目	「科目における具体的到達目標」 (各科目における具体的到達目標の具体化)	「受講学生が特に取り組むべき重点課題」 (各目における具体的到達目標を踏まえ、科目担当教員が設定)
保育方法論	<p>A 子どもの発達に影響を及ぼす「保育者の専門的なアプローチ」の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高める</p> <p>B 保育者としての「専門的なアプローチ」に関する継続的学習を通して人間性を育む</p> <p>C 保育者としての「専門的なアプローチ」に関する専門的知識や判断力を習得する</p> <p>D 豊かな保育実践を成し得る「専門的なアプローチ」の基盤を培う</p>	<p>・「専門的なアプローチ」の観点から保育職の意義を理解することにより、使命感や倫理観を向上させる【主としてA、Bに対応】</p> <p>・保育者としての「専門的なアプローチ」に関する専門的知識や判断力を習得し、保育を構築していく基礎技能を身に付ける【主としてC、Dに対応】</p>
保育課程総論	<p>A 子どもの発達や子育て支援を支える基盤となるカリキュラム編成や評価の意義を理解することによって資質を高めると同時に、使命感や倫理観を高める</p> <p>B カリキュラム編成から評価に至るまでの個々の課題への継続的学習を通して人間性を育む</p> <p>C 主としてカリキュラム・指導計画・実践・省察・評価・改善に関する専門的基礎知識や判断力を習得する</p> <p>D 子どもの発達や現代的保育ニーズを適切に理解した望ましい保育実践ならびに指導計画案を作成する</p>	<p>・カリキュラムの編成や指導計画作成についての基礎知識を習得する【A、Cに対応】</p> <p>・計画・実践・省察・評価・改善のサイクルを動的にとらえ理解する【B、Dに対応】</p>
音楽Ⅰ－Ⅰ／ 音楽Ⅰ－Ⅱ	<p>A 音ならびに音楽作品が子どもの感性や情操に与える意義の理解、また音楽的調和が社会的調和と相通じることの理解を通して、使命感や倫理観を高める</p> <p>B 音楽作品の鑑賞ならびに演奏トレーニング等の音楽活動に継続的に取り組むことによって人間性を育む</p> <p>C 音楽、ならびに保育における子どもの音楽活動に関する専門的知識や判断力を習得する</p> <p>D 多様な音楽表現技能の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想する</p>	<p>・弾き歌いのためのピアノ演奏および伴奏の基礎、読譜力を習得し、その場に応じた演奏や伴奏づけができるよう継続的な実践をおこなう【主としてB、C、Dに対応】</p> <p>・他者の演奏に耳を傾けて表現を客観的に見つけ、分析するとともに、音楽におけるハーモニーの重要性を理解する【主としてA、Bに対応】</p>

体育Ⅰ－Ⅰ 体育Ⅰ－Ⅱ	A	運動が子どもの身体発達ならびに感性や情操に与える意義の理解を通して使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びの意義を理解し、楽しみながら、真摯に取り組むことにより多様な運動技能を身につける【主にA、B、Dに対応】</li> <li>・子どもたちが運動遊びを楽しく、安全に行えるよう援助法、指導法を身につける【主にCに対応】</li> </ul>
	B	競技上のルールを順守し、真摯な競技への取り組みを通して人間性を育む	
	C	運動機能および競技種目、ならびに保育における子どもの運動活動（とりわけ安全性）に関する専門的知識や判断力を習得する	
	D	多様な運動技能（筋力・身体感覚等）の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想する	
図画工作Ⅰ－Ⅰ／Ⅰ－Ⅱ	A	色彩や形態ならびに美術作品が子どもの感性や情操に与える意義の理解を通して、使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象を観察し、描画する方法を習得しながら感性を養う【主としてA、Bに対応】</li> <li>・色彩、形態、素材等の美術活動に関する専門的知識や技能を継続的に取り組むことにより習得する【主としてB、C、Dに対応】</li> </ul>
	B	美術作品の鑑賞ならびに製作トレーニングなどの美術活動を継続的に取り組むことによって人間性を育む	
	C	美術（色彩・形態・素材等）、ならびに保育における子どもの美術活動に関する専門的基礎知識や判断力を習得する	
	D	多様な美術表現技能（描画・造形製作等）の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想する	
子ども文化Ⅰ	A	多様な文化財が子どもの感性や情操に与える意義の理解を通して、使命感や倫理観を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを対象にした児童文化の在り方と基礎知識を確実に習得する【主としてA、Bに対応】</li> <li>・児童文化財を用いて、保育実践ができるよう文化財技能を構築する【主としてC、Dに対応】</li> <li>・子どもの成長発達を支援、促し、導き、影響を及ぼす存在として保育者を理解し、高く広い人間性を身につける【主としてCに対応】</li> </ul>
	B	文化財の鑑賞ならびに文化活動への継続的な取り組みによって人間性を育む	
	C	文化財ならびに保育における子どもが文化に触れる保育活動に関する専門的基礎知識や判断力を習得する	
	D	多様な文化財技能（読み聞かせ・手遊び等）の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想する	

\* 卒業必修科目を中心に公開

研 究 紀 要

第58・59合併号

平成25年 2月25日 印刷

平成25年 2月28日 発行

編集発行 高 松 大 学  
高 松 短 期 大 学  
〒761-0194 高松市春日町960番地  
TEL (087) 841-3255  
FAX (087) 841-3064

印 刷 株式会社 美巧社  
高松市多賀町1-8-10  
TEL (087) 833-5811